

よなか ふしぎ わ
世の中には不思議で分かりづら
いことがたくさんあります。自然、
かがく れきし くわ せんせい
科学、歴史など、詳しい先生に解き
あ
明かしてもらいましょう。

知りたい好奇心



©原ゆたか / ポプラ社

西湖・根場

安全で快適な暮らし 人と水 関わり示す

水は水道の蛇口からいつでも流れ出てきます。また室内の温度のコントロールはエアコンに任せることが多くなり、夏の暑さや冬の寒さをしのぐことが簡単にできています。このような便利な暮らしをしていると、自然との関わりを感じることは難しいのですが、私たちは、確かに自然と共に暮らしています。今回、紹介するのは、富士河口湖町にある「西湖いやしの里根場」です。立ち並ぶ古民家が昔懐かしい雰囲気を作り出している観光地ですが、ここでは人々と水との付き合い方を示す良い例を見ることが出来ます。

災害から守る

その一つは災害との付き合い方です。この場所は今から50年ほど前に大きな災害に見舞われ、集落のほとんどが土石流に流されて消滅した過去を持っています。かつてここで暮らした人々は別の場所に移り住みましたが、この写真に見える砂防堰堤や深い川は、ここを災害から守る仕

掛けなのです。土砂が下に流れるのを防ぐ砂防堰堤は日本の川にたくさん造られ、「サボー」という言葉が世界で通用するほどです。

写真に見えるのは本沢川に作られた最下流の堰堤です。この堰堤とセツトとなる深い川によって、いったん大水が出たとしても、水があふれ出るのを防ぎ、周辺の家々を守る事が出来ます。

恵みを受ける

もう一つは水の恩恵を受けている暮らしです。石造りの水路を流れる水は、流れ下っ



水路は暮らしに最も近い場所を流れている。看板には「西湖いやしの里根場」の入り口で販売しているラムネを冷やす水だと書かれている

て水車を回す水に使われ、最後は本沢川に流れ込んでいました。水道がない時代、上流の水を集落に引き入れることで飲み水や生活用水を確保し、電気の代わりに水車がエネルギーをつくり出していた暮らしがうかがえます。日常的に目の前の用水路の水を使うことで、昔の人は水のありがたさを直接感じたことでしょう。

しかし今でも水道水の源は山の川から引かれた水や地下水で、これらはすべて自然がつくり出した水です。また水力発電によって今でも日本の発電量の7・8%ほどの電力を生み出しており、小水力発電への関心は高まるばかりです。

安全で快適な暮らしを守るために、自然のことをよく知っておく必要があることが分かりますね。(山梨大学総合研究部国際流域環境研究センター教授 風間ふたば)

正面に砂防堰堤(えんてい)が見える本沢川。この地区の災害の歴史や防災工事は砂防資料館で詳しく紹介されている

